

2024/5/27 (月)

朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書 1章1節 (新約聖書 160頁)

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

秩序

気づいた人もいたでしょう。ことばの読みを二文字ではなく、ここでは「言」と一文字で表記しています。これは新約聖書のギリシア語「ロゴス」の訳です。当時、言葉には話し言葉を意味するレーマと、「理性、論理、秩序」を意味するロゴスがありました。

一般に予測不可能な自然の秩序（ピュシス）に対し、ロゴスは人間の論理、秩序を意味しました。ところがイエスを救い主と信頼した人たちは、神の愛こそが真の秩序（ロゴス）だと信じたのです。そこでその意味を際立たすため「言」と訳したのです。

皆さんもよくご存じの通り、神の愛の秩序は「隣人を自分のように愛する」「互いに愛し合う」です。イエスの生涯そのものです。神は最初からどんな存在をも、絶えず愛し続けている。イエスは生涯をかけて神の愛を示して下さったと言っているのです。

ただ私たちはイエスではありません。私たちには足りないところがあり、欠けたところもあり、過ちも犯します。しかし誰もが神様に愛されている尊い存在です。だから互いに補い、赦し、慰め、励まし合うのが、神の愛の秩序（ロゴス）となります。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたの創造された自然の中で、私たちは儂く、脆い存在です。しかしあなたに愛され、互いに愛し合うために、私たちには尊い命が与えられました。今週は体育祭が予定されています。天候が心配されますが、互いに励まし、喜びのうちに迎えることができますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン